

認めあうことの大切さ

八代郡氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 2年 富田 明日海

私は、道徳の授業で「石を投げるな」という話について学習しました。みなさんだったら、「石を投げるな」と聞いて何を想像しますか。私は、けんかをしていて石を投げあったりするのを思いうかべました。

この話の中で、井上毅という方が一番伝えたかったことは、政治でたとえ党派が違っていても、相手の意見はしっかり聞くことが大切だということです。実際に井上毅本人もあまり仲の良くなかった人ともちゃんと意見を伝えあい、だんだん二人の関係は良くなりました。「違う意見の人とも意見を伝えあう」これがこの話の一番大事な部分で、要するに題名である「石を投げるな」とはこんな意味ではないのかなと思います。

みなさんも、誰かと意見が違っていてけんかになったり、その人の悪口を言ってしまったことがあると思います。私も、クラスで話しあったりするときに自分と違う意見の友達の話をも素直に聞けなかったことがありました。また、逆に自分の意見を聞いてもらえなかったこともあります。そのときは、とてもいやな気持ちだったし、その友達とこれから仲良くできるのか、きらわれてしまったかもしれないと考えてしまいました。だからこそ、自分が人の話をしっかりと聞けなかったとき、友達も私と同じようにいやな思いをしてしまったんだろうなと思い、とても後かいしています。

この話を読んで、人には一人一人の考え方や思いがあるので、相手の意見を否定することは良いことではないなと思いました。また、この話の題名である「石を投げるな」という意味は自分が想像していたものと全く違っておどろいたし、この話を読んで勉強できて良かったなと思いました。

これから先は、違う意見や考えを否定せず、認めあっていけるような人間関係をつくっていきたいです。最後に、自分のふるさとである熊本にこんなにも素晴らしい方がいることをほこりに思います。